



STEP 2

子どもがつながる

子ども同士のつながりが、子どもの育ちと学びを豊かにします。



Q1

交流活動のよさは何ですか？

A1. 子どもの育ちと学びを豊かにするとともに、教職員にとってもよさがあります。

だれに	どのようなよさがあるか
園児	5領域のねらいや内容が充実する。 小学校の「人・もの・こと」に親しみをもつ。 園の遊びの中で、今までになかった遊びや遊び方の発想が生まれる。
小学生	各教科等の目標や内容が充実する。 自分の成長に気付く。 遊びや関わり方を工夫するようになる。
教職員	子どもの発達を知ることで、子ども理解が深まる。 互いの教育及び保育を理解することで、自身の教育観が広がる。 子どもの姿から教育及び保育を充実させることができる。



Q2

交流活動を行う上での留意点は？

A2. 「どちらにとっても学びがあること」と「継続的に取り組むこと」を意識しましょう。

○「どちらにとっても学びがあること」

交流することのよさを踏まえ、園、小学校がそれぞれ活動のねらいを明確にして、一緒に内容や役割分担等の計画を立てます。特に、園児がお客様にならないようにすることに注意が必要です。そのためにも、交流の中では、子どもたちを集めて先生が説明する時間を少なくし、活動の時間を多くしましょう。

○「継続的に取り組むこと」

子ども同士が関わる時間を確保し、交流を重ねることで、子どもにとって楽しさが増し、思いや願いが生まれます。交流が日常のものになればよいです。「自然体での交流」をめざしましょう。交流のための練習は必要ありません。練習しなくても、「架け橋期のカリキュラム」の実践により、子どもたちは十分に力を発揮します。



Q3

園と小学校が遠いのでなかなか交流ができないのですが、どうしたらよいでしょうか？

A3. 地域や学校の実態を踏まえ、持続可能な方法を考えましょう。おたよりや手紙の交換、制作物の展示、Web 会議システムを活用しての交流会などを行ってみてはいかがでしょうか。手紙が届く、声を聞く、顔を見るだけでも、子どもたちはワクワクするものです。



複数の園と小学校で交流するのは大変だと思いますが、どうしたらよいでしょうか。

A4. 交流活動を充実させるために様々な事例を参考にするとよいです。

例① 入学者数や歩いて行ける距離等をもとに、相手(1~2園もしくは校)を決めて交流している地域があります。架け橋期のカリキュラムも同様に相手を決めて作成しています。

例② 小学校が複数学級ある場合、1組は〇〇幼稚園、2組は△△保育所、3組は□□こども園…など、担当園を決めて、年間を通して交流している園・小学校もあります。



交流活動後の留意点は？

A5. 子どもたちに活動を通して学んだことを意識化する声掛けをしたり、それぞれの教育及び保育の中で活動を発展させたりすることが大切です。

また、交流の質を高めるために、振り返りを十分に行い、次のように交流の幅を広げていくことも検討してみてください。

例① 5歳児と1年生との間だけでなく、様々な子どもたちと交流を検討

→ 5歳児と5年生との交流は、次年度には1年生と6年生に

例② 5歳児と1年生の担任だけでなく、様々な学年の教職員の参加を検討

→ 様々な学年の交流活動や、養護教諭や栄養教諭等との関わりを年間計画に

例③ 交流活動に保護者・地域の人を巻き込む。

→ 保護者・地域の人参加できる行事を活用して、参観するだけでなく参加型の交流を



STEP 2

「子どもがつながる」事例

日常的で簡単な 何度も

身近に感じよう！

～小学校ってどんなところ！？～

- ①執筆者の所属：幼稚園
- ②園児数：49人
- ③連携校数：1校
- ④連携の現状：年4回の計画的な交流活動に加え、日常的な交流を行っています。
- ⑤執筆者の一言：5歳児が日常的に小学校を訪問し、見学や施設を利用することで、小学校へ親近感をもつことができます。

1 ねらい

小学校の様子を知ることで、小学校への親しみを感じたり、入学への期待を高めたりする。

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

5歳児（19人）、☆5歳児クラス担任

栄養教諭、養護教諭、☆保幼小連携担当者等

小学校

3 時期

5月～1月

子どもに経験してほしい活動を精査し、また、日時は柔軟に対応できるようにすることで、学校を訪問しやすくなります。

4 内容・時間

小学校の校内見学

- ・トイレを使用する（10分）
- ・校庭で遊ぶ（30分）
- ・給食室、保健室、校長室、購買部等の見学（5～10分）
- ・図書室見学（30分）

小学校の授業や行事の見学

- ・運動会練習、水泳学習の見学等（45分）
- ・選書会のブックトークへの参加（30分）
- ・マラソン大会（試走）の応援（15分）

小学校の栄養教諭や養護教諭の話聞く

- ・食育指導（30分）
- ・歯磨き指導（30分）

5 取組を充実させるためのポイント

- 小学校と隣接しているというメリットを生かし、日常的に小学校を訪問し、小学校の行事や施設について知ったり、教職員と触れ合ったりする。
- 日時は柔軟に対応する。
- 事前に子どもに経験してほしい活動を精査し、毎月やり取りをしている行事予定表で確認したり、授業内容を問い合わせたりする。
- 小学校を訪問したときの子どもの様子を教職員間で振り返り、学校訪問の計画を考えたり、園生活で生かせることなどを話し合ったりする。
- 栄養教諭や養護教諭には、日頃の子どもの様子を伝え、実態を考慮した上で、話してもらう内容を事前に相談する。

年間計画に組み込まれている子ども同士の交流活動とは別に、より小学校を身近に感じることができるような交流を考えました。

STEP 2

6 取組の実際

(1) 小学校の校内見学

トイレの使用 小学校と園のトイレの環境の違いに戸惑う子どもが多いことから、入学後も安心してトイレに行けるよう、小学校を訪問した際は、毎回、トイレを使用しました。「すこし暗いね。」「トイレの数が少ないね。」など違いを感じていましたが、回を重ねるごとに使い方がスムーズになってきました。また、園と小学校が使っている手洗い用石鹸が異なっていたことから、様々なタイプの石鹸を使用することを目的に、2 学期より、5 歳児は小学校で使っている手洗い用石鹸を使用するようにしました。さらに、トイレの使用に関する子どもの思いを園と小学校とで共通理解しました。

(2) 小学校の授業や行事の見学

運動会の練習 小学校の運動会の練習を 3 回見学しました。広いトラックを走ること、小学校は児童の人数がとても多いことなどを知ることができました。また、園の運動会でも 5 歳児が「玉入れ」をすることを予定していたため、1、2 年生の「玉入れ」の練習を見学することで、自分たちの運動会を楽しみにする様子も見られました。そして小学校が振替休日の時に校庭を使わせてもらい、実際にトラックを走る経験もできました。



2 学期には、5 歳児が運動会で踊るダンスを 1 年生が見学に来てくれました。いつも以上に張り切って踊る様子が見られ、また 1 年生に褒めてもらったことで、自信をもつことができました。

ブックトークへの参加・給食室見学 体育館で行われた選書会のブックトーク(本の紹介)や 1 年生が本を選ぶ様子を見学しました。その後、栄養教諭の先生に給食室を案内してもらい、大きな釜やしゃもじ、調理の様子などを見学しました。その後の給食では、苦手な野菜を残さず食べたり、おかわりをしたりする姿が見られました。

プール・水泳学習見学 プールを実際に見学することにより、プールの大きさやシャワーの水量など、園との違いを知ることができました。

マラソン大会(試走)の応援 1、2 年生の走る様子を応援しました。大きな声で声援を送ったり、ポンポンを振って応援したりしました。小学生も園児の応援に応え、走るスピードを上げたり、笑顔を見せたりしていました。

(3) 小学校の栄養教諭や養護教諭の話を聞く

社会見学で 1 年生が教室を使用しないときに、机と椅子に座って教室の雰囲気を味わいました。栄養教諭の先生に食育指導をしてもらい、授業体験をしました。子どもたちは、緊張した様子でしたが、姿勢よく座り、真剣に話を聞きました。栄養教諭の先生に教えてもらった 3 つの食品群「赤、緑、黄」について興味・関心をもちました。その後、園でも給食当番がボードに表示されている食べ物の 3 つの色を確認するようになりました。



今後も継続的に小学校を訪問できるようにするためには、教職員同士が顔見知りになり、気軽に話せる関係にあることが必要です。そのため、連携担当者だけでなく、多くの教職員が連携に関わり、教職員の異動があっても良好な関係が継続できるようにしていきたいと考えています。

STEP 2

「子どもがつながる」事例

就学を見据えて 複数学年での交流

待っているよ！「小学校で遊ぼう」

- ①執筆者の所属：小学校
- ②児童数：518人
- ③連携園数：6園（今回は2園の取組を紹介）
- ④連携の現状：年1回の交流をしています。
- ⑤執筆者の一言：園児が小学校の複数学年と交流を行うことで、小学校への親近感を高めることができます。

1 ねらい

小学生との交流を通して、小学校への憧れの気持ちや親近感をもつことができるようにする。

自分たちが楽しむ中で、園児の存在を大切にし、思いやりの心を育むとともに、進級に向けての意識を高める。

園

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

小学校

近隣の保育所・幼稚園の5歳児
5歳児クラス担任等

5年生と5年生担任、1年生と1年生担任
☆保幼小連携の担当者等

3 時期

11月～2月

複数学年で行うことで、5歳児が小学校をより身近に感じられます！

4 内容・時間

1年生と5歳児の交流(45分)

「みんなであそぼう」

- ・1年生と園児と一緒に、新聞じゃんけんやしっぽ取りなどの遊びを通して触れ合う。(40分)
- ・気づきや感想を交流する。(5分)

5年生と5歳児の交流(45分)

「みんなであそぼう」

- ・グループごとに手遊びをしたり、学校を探検したりする。(40分)
- ・気づきや感想を交流する。(5分)

5 取組を充実させるためのポイント

- 保幼小の先生同士のつながりをつくり、視点をもって交流学習が行えるように打合せの場と振り返りの場を設定する。
- 1学級1園との交流を行う。1年生と交流した園は、次年度に5年生と交流する。（本校では1年生3クラス、5年生3クラスとで6園と継続的に交流を行っている。）
- 担任同士が子どもの様子をもとに話し合い、内容を定める。

小学校区内に複数の園があるときには、学級ごとに分かれて交流します！！負担なく、かつ全校で関わる人を増やすことができます！！

STEP 2

6 取組の実際

(1) 担任や主任等を招いた打合せ会の実施

保幼小交流会に向けて、6 学級と 6 園とで事前の打ち合わせ会を小学校で開きました。この会の目的は 2 点あります。1 点目は先生同士のつながりをつくることです。直接情報交換をする中で、先生同士のつながりをつくることができました。2 点目は、思いや願いを共有することです。子どもたちの様子や交流会への思いや願いを共有し、協働して交流会を計画することができました。

子どもの姿を
共有



思いや願いを
共有



(2) 交流会 (6 園のうち、2 園の取組を紹介)

1 年生27名と5 歳児23名との交流

新聞じゃんけん



じゃんけんをして、負けたら新聞を半分に折りたたみます。5回負けたら終わりです。

ここがポイント!

はじめのゲームは1対1のように少人数での遊びからスタートすることで1年生も5歳児も安心できます。ゲームの前に自己紹介をするとよいです。

その他・しっぽ取り、プレゼント交換、トンネルくぐり



5 年生32名と5 歳児23名との交流

手遊び



保育園の先生の進行で、わらべ歌を楽しみました。

- ・おてらのおしょうさん
- ・やなぎの木の下で
- ・きゅうりができた
- ・かまきりマッサージ

学校紹介

園児のリクエストで選曲!!



ここがポイント!

タブレット端末を使って、学校の様子を紹介した後、実際に学校内を探検しました。実際に体育館や教室を見て回り、小学校の様子を感じることができたようです。

交流を通して、5 歳児は小学校への親近感を、小学生は思いやりの心をもつことができました。

(3) 来年度へ向けた振り返りの会を設定

交流会実施後は、振り返りの会を設け、来年度への取組についても意見を交換しました。

STEP 2

「子どもがつながる」事例

就学を見据えて 合同会議

子どもが主体的に動いて
わくわくな学校探検

- ①執筆者の所属：幼保連携型認定こども園
- ②園児数：120人
- ③連携校数：2校（今回は1校）
- ④連携の現状：年4回の合同会議を行っています。
- ⑤執筆者の一言：小学校が特別な場所ではなく身近な場所になることで、入学に期待を膨らませることができます。

1 ねらい

小学生との触れ合いを楽しみながら参加し、1年生や小学校の先生と交流をすることで、小学校生活に期待がもてるようにする。

相手意識をもって5歳児に接し、関わることの楽しさや自分の成長に気付くとともに、これからの成長に願いをもって生活することができるようにする。

園

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

小学校

校区内保育園・幼稚園・こども園
園長(3人)、主任(1人)、☆連携担当者
5歳児クラス担任(3人)、5歳児(60人)

校長、教頭、教務
☆連携担当者(1年生担任)
1年生(24人)

3 時期

2学期半ば(10月)

4月ごろに大まかな打合せをしています。

4 内容・時間

事前打合せ<実施日2週間前>(60分)

- ・当日の交流内容を話し合う。
- ・小学校側から提案された交流内容について、昨年の反省などを生かしながら参加者全員で意見交換をし、内容を決定する。

はじめの会(5分程度)

- ・子どもたちの緊張を解いたり楽しい雰囲気をつくったりするために園の先生たちと一緒に体を動かしたり歌を歌ったりする。

学校探検(50分)

- ・子どもたちは小学生を含む各園合同のグループに分かれて活動する。
- ・小学校の先生たちは校内各場所で待機して、説明をする。園の先生たちは各グループの見守りをする。

終わりの会(5分程度)

- ・園からのお礼の挨拶をし、小学生に見送られて終了する。

5 取組を充実させるためのポイント

- 小学校の先生に5歳児の実態、様子を知ってもらう。また、交流内容についても互いが意見交換しやすいよう話し合いの機会、場所をもつようにする。
- 交流後に振り返りの機会をもち、今回限りとせず、次回の交流につなげていくようにする。
- 当該年度中に、次年度の具体的な実施計画を立てておくようにする。

STEP 2

6 取組の実際

(1) 事前合同会議(実施 2 週間前)

小学校側から「秋祭り」での交流のお誘いを受けましたが、園の子どもたちが“お客さん”になって受動的に参加をする会ではなく、主体的に参加する交流会にしようとの意見を出しました。また、園の子どもたちの緊張感や不安感を軽減させる方法として、はじめの会ではこども園の先生が日常的に園で行っている手遊びをしたり、みんなで歌を歌ったり、おわりの会では保育園の先生や子どもたちが挨拶をして、場や気持ちを和ませるようしてみようとの意見もあり、当日の計画に盛り込み、実施することになりました。



(2) 当日の活動

1年生と5歳児の混合グループ(1年生3人と5歳児5、6人)で、校舎内(音楽室・理科室・家庭科室・図書室・体育館・1年生教室)の探検をしました。1年生教室では1年生が自分の机に座らせてくれたり、ランドセルを背負わせてくれたりしました。その他の教室には小学校の先生が待機していて、その教室にあるものの説明を聞き、実際に体験をすることで小学校に興味津々の様子が見られました。また、グループごとに学校探検カードをもち、小学生がリーダーになりながら次に回る場所を話し合い、スタンプラリー形式で回った場所にシールを貼っていきました。園の子どもたちはわくわく気分楽しんでおり、小学校への親近感が高まりました。

事前に交流する機会をもったことで、園児同士が顔見知りになり、小学校での交流を楽しみにしていました。また、夏に小学校のプールで遊ばせてもらった時の経験から校舎にも興味をもっていため、学校探検に期待して参加していました。



小学生がランドセルの中身を入れてくれて重さを知ることができました。

(3) 振り返り

実際に参加した先生が「期日」「内容」「その他」の項目について回答するアンケートを行いました。内容は、改善点や園・小学校の子どもたちがもっと主体的に関わることでできる活動にするための方法などでした。

本年度末には来年度の予定を決めています。

(4) これからに向けて

春・夏・秋の合同会議の実施により、園・小学校の先生間で、まず顔見知りになる、互いの立場を知る、子どもたちへの願いや関わりを知る等、相互理解を深めることができました。また、実際の交流についてもそれぞれが意見を出し合い、互いの立場を尊重し合いながら計画を立てることができました。さらに今年度最後の冬の合同会議の際に来年度の具体的な実施計画を立てることができました。

来年度の合同会議では本年度の振り返りを生かして、交流活動を通してそれぞれの立場から子どもの姿やねらいを立て、それぞれのねらいが実現できるように、園の子どもたちが受動的な交流の会ではなく、主体的に参加することのできる交流会が実施できる話し合いになればよいと思います。また、負担を軽減するためにも、それぞれが持ち回りで取りまとめをしたり、Webでの会議を取り入れたりするなどの提案もしようと考えています。以後、状況が変わっても(人事異動など)子どもたちの育ちが繋がっていくようにこの取組を続けていきたいと思っています。

STEP 2

「子どもがつながる」事例

地域 行事

幼保小ふれあい活動でつながろう

- ①執筆者の所属：幼稚園（保育所併設）
- ②園児数：約30人
- ③連携園・校数：4校9園（今回は1校）
- ④連携の現状：年に3回「幼保小ふれあい活動」を行っています。
- ⑤執筆者の一言：立地を生かして交流を充実させています。

1 ねらい

小学生に対して親しみの気持ちを持ちながら、秋の探索や言葉遊びを楽しむ。

園児に対して思いやりの気持ちを持ちながら、秋の探索や言葉遊びを楽しむ。

園

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

小学校

4・5歳児（18人）、園長、主任
☆4・5歳児クラス担任

1・2年生（26人）、1・2年生担任

3 時期

10月下旬

隣接している地域の施設で活動を行うことで、地域の方との関わりも生まれます。

4 内容・時間

幼保小ふれあい活動でつながろう（140分）

※園と小学校、地域の施設が隣接している環境にある。

- (1) 1・2年生と4・5歳児が縦割りグループに分かれ、ウォークラリーを行う。
- (2) 皆で協力して各ポイントにある課題やクイズに挑戦する。
- (3) ウォークラリーで見つけた秋の自然物を使って制作をする。

5 取組を充実させるためのポイント

- 園と小学校、地域の施設が隣接していることを生かした交流の方法を保幼小で一緒に考え、行うようにする。
- 交流の前には、子どもの様子や計画について対話する場をもち、ねらいや内容を確認し合う。交流後は振り返りを行い、次回の交流へ生かしていく。

交流には対話が大切です！
交流の前後には先生同士が本音で対話できるようにしたいです。

STEP 2

6 取組の実際

(1) 事前打合せ

この地域では、年に3回「幼保小ふれあい活動」を実施しています。学期に1回のペースで開催しており、各回の担当はそれぞれの担任が持ち回りで行っています。

今回は担当である5歳児クラスの担任が計画を作成し、それに基づいて活動日の約3週間前に1・2年生の担任と意見を交わしました。ねらいや子どもたちが今どんなことに興味があるのか等を互いに話し合い、当日の内容を決めていきました。

秋のクイズなら自然に関心をもつことができ、園の子どもも分かるので、どうでしょうか？



(2) ふれあい活動当日

縦割り班でウォークラリーを行いました。近隣にある地域の施設を快く貸していただき、施設内でクイズや課題に挑戦しました。小学生は園の子どもたちを気にかけて、優しく接しようと張り切る気持ちと、自分が楽しみたいけれど、そればかりではいけないという気持ちの中で葛藤している姿がありました。一方、園の子どもたちは、小学生は優しく、いろいろなことができるという憧れの気持ちを抱き、年上の人から優しくされる経験を存分に味わっていました。それぞれの立場で、様々な感情体験をし、気持ちを調整したり、折り合いをつけたりすることを学びました。

また、クイズを通して、園の子どもたちは、秋の自然やそれを表す言葉に関心をもち、小学生は言葉を使って、伝えたいことを工夫して伝えようとする姿が見られました。

また、施設の方の話を聞く機会もあり、地域の方や施設に親しみをもつことができました。地域全体で子どもたちを見守り育てていく基盤がつくられています。



なべなべそこぬけをするよ！僕たちのところを通ってね！



次はここに行ってみよう。

この5文字でできる秋の昆虫は何か？



言葉クイズおもしろい！ぼくたちも考えてみたい。

(3) 振り返り

各縦割りグループに先生が一人ずつ入って一緒に行動したので、互いの育ちや発達がよく見えました。子どもたちはそれぞれが役割をもって行動する中で、思いやりの気持ちや親しみの気持ちをもつようになっていくことを確認し合いました。また、子どもの姿からこの時期の子どもにとって、クイズや課題の内容がどうだったのかを振り返るよい機会となりました。隣接している環境で、気軽に先生同士が対話できることはとても恵まれている環境なので、今後も生かしていきたいです。

STEP 2

「子どもがつながる」事例

地域 行事

オープンキャンパスへ行こう

- ①執筆者の所属：保育所
- ②園児数：約 150 人
- ③連携園・校数：3 校 8 園（今回は 1 校）
- ④連携の現状：幼保小連絡協議会を年に数回開催しています。
- ⑤執筆者の一言：小学校を見学することで 5 歳児が安心感をもてます。

1 ねらい

小学生と一緒に遊んだり、授業を見学したりすることで小学校の雰囲気を感じ、就学への期待を膨らませる。

園児に学校の生活について教えたり、一緒に遊んだりすることで思いやりの気持ちを育てるとともに、進級への意欲を高める。

園

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

小学校

5 歳児（32人）、5 歳児クラス担任、主任

1 年生（130人）、1 年生担任、
☆校長

3 時期

10月下旬

4 内容・時間

オープンキャンパスへ行こう(60分)

※園は小学校まで徒歩約30分の距離にある。

5 歳児が小学校へ行き、1 年生の授業風景を見学したり、休み時間に一緒に遊んだりしながら交流をする。

休み時間を利用することで、自然な交流が行えます！

5 取組を充実させるためのポイント

- 1 年生の普段の授業を 5 歳児が参観したり、休み時間に一緒に遊んだりするなど、無理なく自然体で行える交流の方法を保幼小で一緒に考えるようにする。
- 交流の前に、ねらいや内容について対話する場をもつ。
- 交流後は振り返りを行い、子どもの姿を十分に共有し、次回への交流に活かしていく。

5 歳児と 1 年生それぞれのねらいを明確にしておくことが大切です！

STEP 2

6 取組の実際

(1) 事前打合せ

本市では中学校区ごとにブロックに分かれて幼保小連絡協議会を年に数回開催しています。協議会ではそれぞれの子ども姿や課題について話し合い、研究テーマを決めたり、持ち回りで公開保育や授業を行い、それに基づいて意見を交換し合ったりしています。幼保小の円滑な接続、連携のあり方について学び合う会となっています。この地域は市の中心部に位置し、市内の中では子どもの数が多い地域です。今回行ったオープンキャンパスについては、1回目の幼保小連絡協議会で小学校より提案がありました。

(2) オープンキャンパス当日

学校までの道中は、小学校について知っていることを友達と話しながら楽しみに歩いていた子どもたちですが、一歩小学校へ足を踏み入ると、園とは違う雰囲気や授業風景に緊張気味で、クラスへ入る足どりが重い子どももいました。授業の様子を見て「難しそう…。」「勉強嫌だな。」という素直な声もありました。しかし、小学校では図画工作科や音楽科など、いろいろな楽しい授業があることを知り安心していました。また、休み時間を一緒に過ごす中で小学生が遊び方を優しく教えてくれたので身近な存在となり、小学校は楽しい場所だと感じることができました。チャイムの音で、一斉に教室に戻る様子に圧倒される姿もありましたが、それもよい経験となり、小学校の過ごし方をひとつ知ることができました。学校内の様々な場所、授業を実際に見聞きすることで不安が軽減し、就学への期待につながりました。



学校はこんな風に勉強するのだね。



落ちたらいけないから、手を離さないでね！



やり方を教えてあげるね！



(3) 振り返り

オープンキャンパス後の幼保小連絡協議会で、参加した園・学校が感想や気づきを発表しました。今後の課題は、事前の話合いを重ね、お互いのねらいや子どもの姿を共有し、交流の日にそれぞれの子どもたちとどのように関わっていくのか、どのような育ちを願うのかを深めていくことです。

また、事後の振り返りで挙げた各々が感じた子どもの育ちや課題を次回に生かしていき、数十年間続いている幼保小連絡協議会が、より有意義なものになるようにしていきたいです。



休み時間に一緒に遊ぶことができ5歳児はとても嬉しかったようです。